



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携 創薬人育成スクール

アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日時：2019年9月14日（土）13時00分～18時05分

場所：名古屋立大学 桜山キャンパス 医学部研究棟 11F 講義室 A

開催世話人：名古屋市立大学大学院薬学研究科 薬化学分野 中川 秀彦

プログラム

- 13:00 開会の言葉 名古屋市立大学大学院薬学研究科 中川 秀彦
- 13:05～14:15 高選択的 Btk 阻害剤 Tirabrutinib の創製
座長：菅 敏幸 小野薬品工業株式会社 医薬品化学研究部 第一研究室 第一グループ グループヘッド 山本 真吾 先生
Btk 阻害剤は異常活性化した B 細胞受容体シグナル伝達経路を阻害することで、B 細胞腫や関節リウマチなどの自己免疫疾患の新規治療薬となることが期待されている。我々は、B 細胞腫に加え、自己免疫疾患にも応用可能な、高選択的 Btk 阻害剤の創製を目指した研究を行った。講演ではヒット化合物から Btk 阻害活性、キナーゼ選択性、物性プロファイルなどを改善して高選択的 Btk 阻害剤 Tirabrutinib を見出した創薬過程について解説する。
- 14:30～15:40 二次性副甲状腺機能亢進症治療薬 エボカルセトの創製
座長：原 脩 田辺三菱製薬(株) 創薬本部 免疫炎症創薬ユニット 宮崎 洋 先生
創薬アプローチ・手法に関して触れつつ、成功事例としてエボカルセトを挙げる。エボカルセトは当社と協和発酵キリンの共同研究下で創製された、日本オリジンの第二世代カルシウム感受容体作動薬である。本剤は維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症患者の副甲状腺ホルモン濃度やカルシウム濃度等を低下させ管理目標値達成に寄与するとともに、第一世代の欠点である上部消化器症状の改善が臨床的に証明されている。研究開発経緯を紹介し、二次性副甲状腺機能亢進症に対する効果を概説する。
- 15:55～17:05 データを知識に変える～データ駆動型創薬の試み～
座長：永澤秀子 帝人ファーマ株式会社 創薬化学研究所 熊澤 啓子 先生
創薬研究を取り巻く環境の変化は激しく、創薬難易度が高まっており、新薬創製力の強化が大きな課題となっている。本課題への対策の1つとして、計算科学技術や情報通信技術(ICT)の活用があり、帝人ファーマにおいても同技術基盤の構築を進めている。講義では、散在する膨大なデータから意味のある情報を抽出し、そこに存在する法則性を見出して実際の創薬研究の意思決定に反映させていく、データ駆動型の創薬基盤の構築による新薬創製力強化の試みを紹介する。
- 17:05 閉会の言葉 岐阜薬科大学 永澤 秀子

終了後、学生中心のミキサー(17:20～18:05 まで)を行います。

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

永澤秀子(地域世話人代表、岐阜薬科大学)、菅 敏幸(静岡県立大)、中川秀彦(名古屋市立大学)、森 裕二(名城大学)、安池修之(愛知学院大学)、林 一彦(金城学院大学)、岩島 誠(鈴鹿医療科学大学)、柴田哲男(名古屋工業大学)、横島 聡(名古屋大学)、池田 将(岐阜大学)